

中干しの徹底で過剰生育防止

1 生育概況(コシヒカリ 6/30現在)

現在の生育(指標値比)

平坦地	草丈:やや長い (106%)	茎数:並 (102%)	葉数:並 (+0.2)	葉色:並 (SPAD値+0.8)
中山間地	草丈:並 (102%)	茎数:やや少ない (93%)	葉数:並 (+0.1)	葉色:やや淡い (SPAD値-1.2)

- 中山間地や田植の遅いほ場でも、生育は回復しています。
- 平坦地や田植の早いほ場では草丈は伸長し、茎数過剰となっているほ場も見られます。
- 「コシヒカリ」の出穂期は平年並みで、前年より1日早い見込みです。

2 調査結果（普及センター、JA調査ほ）

(1)コシヒカリ

	場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考	
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
平坦地	今熊(浦川原)	16	5/12	60	113%	120%	626	株当 34.8	126%	128%	10.6	±0	+0.6	41.4	+6.3	+2.4	
	飯室(浦川原)	13	5/8	56	80%	112%	520	株当 32.5	93%	106%	10.5	-0.6	+0.5	39.7	-1.7	+0.7	
	宮口(牧)	71	5/19	42	82%	84%	353	株当 19.0	65%	72%	9.4	-1.1	-0.6	38.3	0.5	-0.7	
	平均			53	91%	106%	500	28.8	94%	102%	10.2	-0.5	+0.2	39.8	+1.7	+0.8	
中山間地	安塚(安塚)	80	5/8	55	99%	110%	592	株当 34.8	135%	121%	10.6	-0.4	0.6	36.7	-2.7	-2.3	
	和田(安塚)	133	5/15	50	88%	100%	472	株当 22.7	117%	96%	10.6	-0.4	+0.6	36.1	+0.2	-2.9	
	大島(大島)	152	5/15	49	82%	98%	453	株当 23.0	77%	92%	10.1	-0.8	+0.1	36.3	+2.5	-2.7	
	菖蒲(大島)	337	5/20	52	90%	104%	418	株当 22.1	91%	85%	10.1	-0.2	+0.1	40.0	+1.3	+1.0	
	高尾(牧)	352	5/23	47	82%	94%	355	株当 18.0	59%	72%	9.3	-0.6	-0.7	40.1	-1.4	+1.1	全量基肥
	平均			51	89%	102%	458	24.1	92%	93%	10.1	-0.5	+0.1	37.8	-0.1	-1.2	

(2)つきあかり

	場所	標高	田植	草丈 (cm)			茎数 (本/㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考	
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
平坦地	長走(浦川原)	19	5/7	71	95%	95%	491	株当 27.0	150%	140%	-	-	-	45.2	+3.0	+5.2	1回目穂肥施用済み
	宮口(牧)	57	5/17	55	83%	73%	315	株当 17.2	85%	90%	9.8	-1.5	-0.7	40.5	-1.5	+0.5	1回目穂肥施用済み
	平均			63	90%	84%	403	22.1	116%	115%	9.8	-1.5	-0.7	42.9	+0.8	+2.9	
中山間地	田麦(大島)	310	5/15	55	-	110%	501	株当 27.4	-	139%	10.0	-	+1.0	44.2	-	+2.2	全量基肥
	高尾(牧)	285	5/21	53	80%	106%	358	株当 18.7	73%	99%	9.6	-1.5	+0.6	40.5	-2.8	-1.5	全量基肥
	平均			54	82%	108%	430	23.1	88%	119%	9.8	-1.3	+0.8	42.4	-0.9	+0.4	

3 今後の管理のポイント

- 「コシヒカリ」は**引き続き、中干しを徹底し、茎数過剰を防止**しましょう。
 - 中干しを終了するほ場では、浅水の間断かん水を実施して根の健全化を図り、徐々に飽水管理へ移行してください。急激な湛水は、根腐れや下位葉の枯れ上がりにつながります。
 - 「つきあかり」の**1回目穂肥時期となっています。分施の場合、穂肥は1回目の施用に重点を置き、遅れずに出穂の30~25日前に窒素成分で2.0~1.5kg/10a施用**しましょう。
(稚苗5/10~15頃、中苗5/15~20日頃の移植で、出穂は7/26日頃、1回目の穂肥時期は6/26~7/1頃、2回目は7/12日頃の見込みです。)
 - 病害虫発生予察調査で**カメムシ類が多く確認されています。イネ科雑草が結実しない3週間程度の間隔で農道・畦畔の草刈りを行い、本田防除も徹底**しましょう。
- ※用水の確保が難しいほ場では、降雨による水の入れ替えにより根の健全化に努めましょう。